

4. 学外からの新任挨拶



北九州市立八幡病院の模索

北九州市立八幡病院 副院長 太崎 博美

市立八幡病院は、北九州市とその近郊の救急センターとしての役割を果たすべく設立維持されてきています。その役割に従い昭和53年に「救命救急センター」、平成7年に「第二夜間・休日急患センター」そして平成15年に「小児救急センター」と一次から三次までの救急や小児から成人までの網羅的な体制を作ってきました。今年年頭に発表された「市立病院事業経営改革プラン」でも、本院は救急医療を中心にした医療提供を求められており、この目標は、これまでの本院に課せられて来た使命と一致するものです。とりもなおさず、30年間の市民の間に浸透して来た八幡病院に対するイメージそのものであると思われま

しかし、昨年6月に赴任して以来、挙ってくる話題は、救急医療の継続が危ぶまれるものばかりでした。とりわけ、内科医（呼吸器科、消化器科）の病院離れの加速によって内科・救急の維持が不可能になると予想される時期が続きました。ここ数年間の救急医療の変化、八幡病院の老朽化に伴う療養環境の劣悪化、新研修医制度の導入という3つの変化に対応できなかったため、働きたい病院から働けない病院へ変貌してしまっていました。一方、症例の豊富さや救急医療に携わる矜持など依然、医療従事者からみて決して働きたくない病院ではありませんでした。

今年になり、いくつかの改革が予定・実行されました。最も大きなものは、北九州市救命医療運営協議会の設立で、八幡病院内科における「第二夜間・休日急患センター」の全面運営の見直しが行われました。これにより、内科医と循環器医の救命救急センターへの集約が可能となり、それを好感して大学派遣の継続や新規に専門医の招集ができました。さらに今後、療養環境の改善のため部屋の改装などが計画されています。また、5月からは敷地内に消防局救急隊が常置されドクターカーの運用を活発化する予定です。小児救急センターは益々充実してきており、マスコミでの紹介も多く、新規研修医の希望や患者数も増加しています。さらに、病院再来の再構築を考えています。これは、地域医療との密接な連携の元、地域医療への安定患者の移動、再来救急の充実、特殊再来への展開を考えています。これらの試みを通して、今年度からの将来構想で、もっと医療システムの充実を図り、若い第2内科の先生方を迎えられるような病院作りを目指したいと思います。

赴任以来、大学時代と変わったのは早寝早起きと管理（印鑑づき）の多さですが、原田先生（長崎大学第2内科）、津田先生、剣先生、佐貫先生（長崎大学第2内科）、大江先生と若い研修医の先生に助けられて、もうすぐ無事に1年間を過ごすことが出来そうです。4月からは、大学から樫山先生と岩瀧先生が赴任され増々元気の循環器科になっています。これからも大学としっかりタイアップして地域医療に貢献して行きたいと考えています。宜しくお願い致します。



ソニー (株) 仙台テクノロジーセンター

産業医 及 川 秀

2007年6月1日からソニー仙台テクノロジーセンターに産業医として勤務しています。ソニー仙台テクノロジーセンターは宮城県多賀城市にあります。近くには松島や塩釜などの観光地もあり、北九州に比較するとおっとりとした雰囲気のある街です。事業所内には1700人前後の社員の方が働いており、それらの方の健康管理を行っています。臨床と産業保健の仕事の内容の違いに戸惑うことが多かった一年でした。まず臨床の現場ではご本人または家族を相手に説明などをしていましたが、現在の仕事は大勢の前で話をすることが多く慣れるまで苦勞しました。また診察室で患者が受診するのを待っていると臨床の現場とは違い、防災訓練、職場巡視や健康教育など外に出て行く仕事もあり戸惑うことも多くありました。健康教育では麻疹やインフルエンザなどの感染症の話もしますが、月に1回は必ず会社の代表と社員の代表がいる前で、生活習慣病についての教育を行っています。とくに最近の産業保健の分野ではメタボリック症候群など循環器疾患に関わるものがトピックであり、2内科で勉強させていただいたことが大いに役に立っています。またメンタル不調についての問い合わせもあり、戸惑うこともありますが2内科からの派遣で以前勤務した病院の精神科のドクターや近隣の精神科のドクターなどと相談し何とか対処しております。以前勤務していた病院のドクターと相談できるなど10年間臨床で仕事をしてきて良かったと思うことがたくさんあります。その他いろいろと判断で迷うこともありますが、産業医大出身の先輩産業医がソニーグループの中にも何人かいらっしゃるので、ご指導を受けながら元気に仕事をしております。高血圧、脂質代謝異常などメタボリック症候群予備軍の健康管理のほか、メンタル不調などの精神科分野、労働法などの法律的な知識など私一人の知識では太刀打ちできないため人事や職場などと連携をとりながら仕事をしています。臨床の仕事もですが、産業医の仕事もネットワークが大切であることを実感しています。宮城県には美味しい食べ物がいっぱいありますので、学会などで仙台に来られたときは是非ご連絡ください。